

&lt;中世史、社会史&gt;

## 中世の家族生活資料コレクション・データベース

## Medieval Family Life

## The Paston, Celys, Stonor, Plumpton and Armburgh Papers

中世期におけるイギリスの日常生活を綴った大変貴重な資料を提供するデータベースです。

パストン家文書は、文学と歴史双方の面で大変興味深い資料です。イギリスで現存している個人の書簡としては最初の記録であり、薔薇戦争と黒死時代のイースト・アングリアにおける日常生活が綴られています。

さらに本コレクションは、約1400年から1490年までの、エセックス、オックスフォードシャー、ヨークシャー、ワーウィックシャーにおける中世の家族に関連する貴重な資料4点を追加しました。データと図表を豊富に収録した文献を提供します。

家族のビジネス、個人的関係、ローカルコミュニティについて素晴らしい情報を提供し、さらに遺産相続のような長期的な問題から、家庭の問題、結婚、育児、財産、葬式、疫病回避、大陸強国の懐柔まで、様々なトピックに関する洞察を提供します。

【価格体系】FTEにより価格が異なります。価格は概算参考価格(税抜)です。

**FTEは人文社会科学系学部の学生数(学部生+院生)より算出いたします。**

FTE <5,000 (Band 0)	FTE 5,001-10,000 (Band 1)	FTE 10,001-15,000 (Band 2)	FTE 15,000< (Band 3)
価格はお問い合わせください			

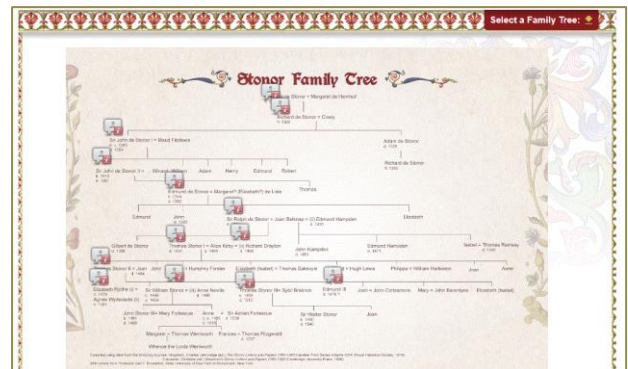
無料トライアル  
受付中！  
(機関・個人とも  
に1か月間)

◇ 完全買い切り・アクセスフィー無し ◇ バックアップ HDD 提供可能 ◇ 同時アクセス無制限

リリース年=2010

## 【収録資料】

- ・ パストン家文書 (Paston Family Papers)
- ・ セリア家文書 (Cely Family Papers)
- ・ プランプトン書簡 (Plumpton Correspondence)
- ・ ストナー書簡 (Stonor Correspondence)
- ・ Armburgh Family Papers



(Adam Matthew Digital, GBR / 日本総代理店: 丸善雄松堂)

《裏面に続きます》

- ◆ 消費税に関しましては税制の改正に則った内容で対応させていただきます。掲載製品はリバースチャージ対象製品です。
- ◆ 原価の改定、為替相場の変動などの理由による価格の変更や掲載タイトルの変更につきましては、予めご了承の程お願い申し上げます。
- ◆ お見積もりは、別途ご用命ください。

## 【特徴】

- ・ 現存している当時の主要な家系の書簡コレクションを提供します。
- ・ 全ての文献のオリジナルイメージから、ダイレクトにフルテキストの文献にリンクされています。
- ・ 中世期の日常生活に関連する視覚資料も多数収載されています。

## 【編集委員】

Joel T Rosenthal, State University of New York at Stony Brook, New York  
Anne DeWindt, Wayne County Community College, Detroit  
Jeremy Goldberg, University of York  
Rachel Gibbons, University of Bristol



## 【原本所蔵機関】

- The British Library, London
- Chetham's Library, Manchester
- The National Archives, Kew
- West Yorkshire Archives

## 【説明】

パストン家資料は、薔薇戦争を背景とした野心家のノーフォークの貴族階級家系の財産について、説明します。パストン家は、ノリッジ近くの商人であり、弁護士であり、地主でもありました。様々な家族メンバーの間で交わされた、数百点の資料と書簡により、戦争、疾病、法的紛争に悩まされたジレンマが詳細に伝わってきます。

男性たちは家を離れ、貿易に従事したり、党派を助けたり、ケンブリッジで勉学に励んだり、さらに時々政治的効力の結果刑務所に投獄されたりしていました。

女性たちは家を守る重要な役目を担い、子どもを育て、財産と家臣の世話をしました。男性たちが家にいなかったため、女性たちが、法的問題、不動産管理、ローカルな問題に関する情報を、書簡に書き、情報を受け取っていたのです。

パストン家文書を読み解いて明らかになることは、家族とビジネス全般のことだけではありません。

15世紀の現存している100点以上の書簡が、執筆者の性格、特に女性の性格を明らかにしています。法は家業でした。パストン家文書が、法的資料（遺言書と陳情を含む）が豊富に収録されているのはそのためです。これらの資料は当時の社会史を紐解く上で貴重な資料となります。

これらの書簡を通し、パストン家の役割、例えば社会における重要人物のための法的アドバイザーであり、友人であり、敵対する隣人であり、主要な公的イベントの記録者であり、当時のマナーとモラルの支持者であったことが明らかになります。

セリア家は、イギリスとフランス、ベルギーの主要な港の、綿の貿易で栄えた、裕福なエセックスの商人でした。1477年から1488年の間にこの貿易は斜陽となり、一族が困難に直面した様子が書簡から伝わります。

14世紀半ばまで、ストーナー家は、オクスフォードシャーとバッキンガムシャーにおける貴族階級として確立されました。彼らの強みは政略結婚、コッツウォールド、チルターン羊、そしてウィリアム卿の後見人と執事でした。一族は、ウィリアム卿がリチャード3世に反逆してバッキンガムに加わった際も、薔薇戦争で深く関わることを避け、1490年代初めまでに、ストーナー家は法廷で重要な役割を果たすかなりの地主としての地位を確立しました。

プランプトン家の書簡は、王、有力者、聖職者、弁護士、裁判官、友人、使用人、ライバル、債権者等多岐に亘ります。資料は、彼らの社会的地位を維持し、発展させるための闘いを克明に綴ります。その闘いは、豊かな生活をするための搾取と政略結婚に支えられていました。書簡は1480年から1510年までを網羅し、ウィリアム・プランプトン卿（1401-1480）や息子のロバート・プランプトン卿（1453-1525）宛てのものが多いです。

これらの家系における女性の役割の重要性は共通したものです。大英図書館 Add Mss 43490 f23 では、1477年2月に、Margery Brews から John Paston III に送ったバレンタインの書簡があります。彼らの交際は長く、資料として記録されています。その他、親子関係、しつけ、健康、葬式などのトピックが多く見受けられます。

Armburgh の資料は、最近発見されたため、中世後期のイングランドの歴史において注目を集めています。書簡の大半は遺産相続の争いです。書簡の大半は1420年から1450年のもので、貴族階級は国内政治の影響を受けることがよくわかります。